

令和5年度第3回広島市教科用図書採択審議会会議録

署名者

樽谷 秀幸

会議録調整者

大下 あすか

令和5年7月28日午後1時00分 令和5年度第3回教科用図書採択審議会を広島市教育センター4階第11研修室において開催した。

1 開会及び閉会に関する事項

開会 午後1時00分

閉会 午後4時45分

2 出席委員

会長 樽谷 秀幸

委員 岡田 泰

委員 神岡 賢史

委員 拝崎 美和

委員 渡部 えり

委員 堤 友紀

委員 面家 真紀

委員 新谷 千尋

委員 竹内 知世

委員 青木 信之

副会長 松島 真里子

委員 田村 央子

委員 寺田 浩子

委員 加藤 理佐子

委員 上田 修

委員 久保 隆裕

委員 辻 行久

委員 中川 亜生子

委員 湯澤 正通

3 事務局の出席者

高田 尚志 指導第一課長

船原 浩司 指導第一課課長補佐

大下 あすか 指導第一課主任指導主事

黒田 真司 指導第一課主任指導主事

宮崎 理恵 指導第一課指導主事

唐井 美沙栄 指導第一課指導主事

松下 彰吾 指導第一課指導主事

松本 穂高 指導第一課指導主事

梅田 大造 指導第一課指導主事

廣田 大樹 指導第一課指導主事

4 議事日程

(1) 採択審議会委員の紹介

(2) 審議の進め方について

(3) 審議

調査員による調査・研究報告及び審議

答申について

(4) 課長挨拶

(5) 諸連絡

## 5 議事の概要

### ○ 宮崎指導主事

開会に先立ちまして、一言申し上げます。現在、本採択審議会の皆様、19名の内、19名の出席をいただいております、「3分の2以上の出席」であることから、本採択審議会は成立することになります。本日もお配りしております、資料について確認させていただきます。

(資料1・資料2) なお、資料につきましては、会議終了後、回収させていただきます。

それでは、令和5年度第3回広島市教科用図書採択審議会を開催いたします。議事については、会長・副会長の方で進めていただきます。樽谷会長、よろしくお願いいたします。

### ○ 樽谷会長

それではよろしくお願いいたします。本日は、国語、書写、社会、地図、家庭、道徳の教科書について御審議いただくことになっています。本日の時程を、黒板に示してもらっています。限られた時間にはなりますが、審議が適正に進むよう努めてまいりますので、委員の皆様には、引き続き、積極的に御意見を出していただきたいと思います。本日は、最後の審議会です。充実した会となりますよう、御協力をよろしくお願いいたします。

### ○ 樽谷会長

それでは、配付資料1の1ページにありますとおり、進めていきたいと思っております。まず、本日の審議について、事務局から説明をお願いします。

### ○ 宮崎指導主事

失礼いたします。では事務局から、本日の審議について御説明させていただきます。

(説明)

### ○ 樽谷会長

それでは、ただ今の説明について、御質問等はありませんか。

(「質問等なし」)

### ○ 樽谷会長

それでは、「審議」に入りたいと思っております。

国語の調査員から国語の教科書の調査・研究について、報告をお願いします。

我々委員は、教科書を手に取り、資料2と合わせて目を通しながら、報告をお聞きしたいと思います。また、教科書は数が限られておりますので、前方の大型テレビにおいても、該当ページが提示されます。マーカー等も準備しておりますので、適宜ライン等を引ながら話を聞き、その後の審議に役立てていただきたいと思います。それでは、報告をお願いします。

(調査員代表者 調査報告)

### ○ 樽谷会長

今の報告について質問がありましたらお願いします。

○ 青木委員

今御説明いただいた中では、特に「書く」と言う活動であれば、プロセスと申しますか、書くために集めたり、構成したり、推敲したり見直したりなど、書いている間、どういうことをするのかということに焦点を当てている、どの発行者にもそういうことがあって、そのことについて詳しく御説明いただいた印象がありました。書く過程を重視、プロセス重視ということから考えたときに、他教科との関わりという意味で、書いている時に読み手の視点、という意味で、特筆すべきような教科書はありましたか。

例えば、他教科との関連だったら、プロセスを重視しているというのは、ただ国語として書くということだけではなく、日本語として書くと申しますか、例えばそれは英語にしても、日本語の分からない人にも理路整然と伝わるとか、今の国語教育はおそらくそういうことを大事にされていると思うのですが、特に読み手の視点はすごく重要だと思うのですが、ここはよく抑えているな、という教科書はありましたか。

○ 岡田調査員代表

読み手の視点と言いますと、授業の中で、相手を意識して、友達同士で読み合ったり、その感想を伝え合ったりというような授業をよく行います。

そういう意味では、例えば光村図書出版、5年の13ページを御覧ください。例えば、「つなげよう」というところがあります。書いた文章の感想を伝え合い、言葉や表現の工夫などについてよい点を見付ける、というような学習活動を仕組むということがございます。こういったことが教科書の中に掲載されている教科書もありますが、授業の工夫として、それぞれの材料を集めた時点で、実際に書いた時点で、また、推敲の前に書いたことについて伝え合う、というような言語活動を仕組んで、読み手の視点を自分の中に取り入れて、それを書いていく、というような工夫をするような展開もあります。

○ 青木委員

そういうことは、光村図書出版以外にも、どの教科書にもあるのですか。先生が読むと、評価が関係してしまうので、どうしても純粹に読み手ではなくなりますよね。だから、いろんな形で本当の読み手というものを盛り込むということは大事だと思いますが、他の教科書にも似たような活動は当然あるんでしょうね。

○ 岡田調査員代表

はい。例えば、教育出版であれば、62ページを御覧ください。これは、案内や紹介のポスターを書くという学習で、「伝えたい相手や目的、内容を考えて、構成や表現を工夫したポスターを作り、たくさんの人に伝えましょう。」という中でも、やはり、最後に「伝え合おう」というところがあります。まずその前段に、「読み返そう」というところでは、読む人に伝わりやすいポスターになっているか読み返すということをまず本人にさせておいて、そして、「伝え合おう」のところではポスターを読み合い、感想を伝え合う、という流れになっています。このように、自分で読み手を意識して書かせておいて、それをお互いに伝え合って感想をもらう、というような学習活動を仕組んでいる教科書もあります。

同じく、東京書籍にも、58ページを御覧ください。「地域の魅力を伝えよう」ということで、筋道を立てて書く、という中にも、やはり感想を伝え合おうというところが、同じように、読み手を意識できるような学習活動が展開できるような流れになっています。

- 青木委員  
そういうところでは、差があるということではなく、どの教科書もどこかで取り入れている。
- 岡田調査員代表  
はい。
- 青木委員  
分かりました。ありがとうございました。
- 樽谷会長  
その他いかがでしょうか。よろしいですか。それでは、この報告書にまとめられている内容について、これでよろしいでしょうか。  
(「異議なし」)
- 樽谷会長  
国語の調査員の代表の方、ありがとうございました。どうぞ御退席ください。  
  
(調査員代表者退出)
- 樽谷会長  
それでは、本市の児童や地域の実態に即した教科書として、ふさわしいものはどれか審議し、「よりふさわしい」及び「ふさわしい」教科書を決めたいと思います。審議にあたっては、本市の実態や児童の状況に即してまとめられた報告書を参考に、全ての教科書の特徴を比較して、本市の児童の課題に対応する特徴がある教科書を決めるということはいかがでしょう。なお、委員の皆様のご意見がまとまらない場合は、挙手により決めたいと思いますがいかがでしょうか。  
(「異議なし」)
- 樽谷会長  
ありがとうございます。それでは、先程の報告を基に、委員の皆様からの御意見をいただきたいと思っております。それでは、御意見をお願いします。
- 拝崎委員  
本市の実態というところ、情報の選び出し、というところで見ると、光村図書出版の視点③のところでは情報の扱い方に関するページが設けられている、「図を使って考えよう」というところが最後に入っているのですが、どの教科書においても、こういうふうに情報を整理して考えていくという参考にもなって、とてもいいなと思えました。  
東京書籍も、教材を読むことと書くことの間には「じょうほうのとびら」を3か所配置している。光村図書出版と東京書籍は、そのようなことも考えた上で配列されているのかなと思えました。プラス、巻末にこういうページが付いている、ということを押まえると、光村図書出版が魅力的だなと思えます。また、主体的に学習に取り組む力を付けてほしいと考えると、視点④の学習過程の示し方のところで、光村図書出版の「問いをもとう」と目標を設定

しているところが、各単元に設けられているというのはとてもいいなと思いました。

○ 樽谷会長

先程、代表の方から、特に視点の③、④、⑤、⑥を中心に、というお話があったと思いますが、視点③では、光村図書出版がよりよいのではないかと、東京書籍がその次によいのではないかと感じる感じでした。視点④については、光村図書出版がよいのではないかと、という感じですか。その他いかがでしょうか。

○ 渡部委員

先程の視点④の学習過程の示し方というところと関わると思うのですが、3者を比べて、光村図書出版を見ていると、単元での学習の過程が親切に示されていると思いました。絵が付いていたり、何をこの単元で学習するのかということが、はっきりしていたりしています。子どもは、今、自分が学習過程のどこにいるのか、ということが分かると、とても見通しをもって学習全体に取り組みやすいと日々感じているところなので、視点④がいいなと思いました。

加えて、視点⑥の年間の学習内容の見通しのもたせ方にも関係があると思うのですが、光村図書出版は二つ丸がありまして、1年間でするようにしたいことなど、楽しみなことや、「こんなこと勉強するんだよ。」ということ年度始めにガイダンスをしようと思うのですが、楽しみな学習を書く欄、それから、1年間を振り返って、自分が何ができるようになったのかを書く欄が示されているので、学習指導要領にもある、「学びに向かう力、人間性等」にも大きく関わってくるかな、と思います。自分ができるようになったことを実感することはとても大事なことだと思うので、それがいいなと思いました。

○ 樽谷会長

ありがとうございます。先程の視点④に追加の御意見と、視点⑥についての御意見でした。

○ 湯澤委員

光村図書出版の17ページ、「五年生の国語の学習で、できるようになりたいことや、楽しみな学習を書いておこう。」というところと、まとめのようなことを書くところが後ろの方にあったと思うのですが、実際、現場で子どもに書かせたときに、子どもはきちんと書けるのでしょうか。実際に指導するときにはいかがでしょうか。

○ 樽谷会長

現場の先生方、いかがでしょうか。田村委員、国語の観点からいかがですか。

○ 田村委員

先生方、光村図書出版にこのような書くところ、枠はありましたでしょうか。ないですね。たぶん、新しく設けられたところだと思います。おそらく、国語の授業開きとかをするときに、こういうところがあると分かれば、私たちがどのようにもっていくのかにもよりますが、子どもたちに見せながら、単に、漢字が上手に書けるようになりたいのではなく、もっていきようでは、「国語には話す・聞く、書く、読むことがあるのだけれど、その中で自分が一番身に付けたいことはどれ。」と問いかけたり、学ぶところを見てから、「楽しみだなと思ったところはどこ。」などと聞いたりして、もっていきようでは書けるのではな

いかなと思います。

○ 湯澤委員

それぞれの子どもたちが自分の目標というものをきちんと書けたら非常によいことだと思うし、それを振り返ることができれば、学習としては定着するので、それが実際の現場でうまくできるようであれば、これが新しく入ってきたということなので、先生方の新しい教材研究の課題みたいなものになるかと思いますが、それがうまくできるのであれば、教材として素晴らしいのではないかと思います。

○ 辻委員

先程からの話に少しつながるのですが、視点①の単元の目標及びまとめの示し方を見たときに、東京書籍だったら、授業開きとして使えるような「国語科の学習の進め方」というところが詳しくて、光村図書出版にもちょっとそういうものがある、教育出版には見られない。その上で更に、光村図書出版は、1年間の目標を書けるところがあるのだと思うと、授業をするときに、各教科で、1年間の最初に、「この教科はこういう勉強をするんだよ。」ということを見通しとして毎回きちんと行って、「さあ、始まるよ。」という形で学ぶということは、1年間の始めに、その教科を学ぶという意識をもたせるために大事なので、光村図書出版はそういうところをととても大切にされているのだと思いました。また、各単元でも、学び方のプロセスがきちんと示されていて、それが分かりやすい形で出されていると思うので、見通しをもたせることについて、光村図書出版の方が充実しているのかなと感じました。

○ 面屋委員

先程の御意見と似ていますが、光村図書出版の「どうやって学んでいくのかな」というところは、子どもの吹き出しのような書き方をされているので、指導する側も、子どもの具体的な姿をイメージしやすいですし、子どもも、こんなふうに考えたらいいんだな、私は感じたことは今こういうふうに思っているから、現在地が分かるというか、そういうのもいいなと思いました。

それから、視点⑥の年間の学習内容の見通しのもたせ方ですが、東京書籍は、領域別ではなく、配列順のロードマップになっているのですが、教育出版や光村図書出版は、領域別になっていて、その配列もいいなと思いました。また更に光村図書出版は、皆さんも言われていましたが、巻頭で1年間にできるようになりたいこと、巻末に1年間を振り返って何が身に付いたかを記入する欄があります。記入することに追われる、記入しなくては、と迫られる感じもありますが、こちらが身に付けた力を、「こんなふうにかけるようになりたい、最後に子どもにこんなふうにか書いてもらいたい。」ということもイメージしながら指導していたらいいなと思うので、意識付けにもよいと思いました。

○ 樽谷会長

その他、いかがですか。ここまでの御意見で言いますと、調査員代表の方から示された四つの視点のうち、視点③は光村図書出版がよりふさわしいのではないかと、東京書籍がふさわしいのではないかと御意見がありました。視点④の学習過程の示し方については、光村図書出版には、絵があつたり、見通しがもてるようにしてあつたりして親切であるということではよいのではないかと。また、視点⑤については各者、それほど差はない。視点⑥は、光村図書出版が「できるようになりたいこと」や「ふり返って」といったところがあるので、よ

りよいのではないか。

さらに、①の視点についても、光村図書出版がよいのではないか。その次に東京書籍がよいのではないか、という御意見だったと思います。これまでの御意見をまとめると、よりふさわしいものとして光村図書出版、ふさわしいものとして東京書籍となろうかと思うのですが、何かその他、言っておきたいことやどうだろうか、という御意見はありませんか。よろしいですか。それでは、お諮りしてもよろしいですか。

○ 樽谷会長

では、お諮りします。国語の教科書として、光村図書出版を「よりふさわしい」教科書として、東京書籍を「ふさわしい」教科書としてよい方、挙手をお願いします。

(人数確認。19名全員の委員が挙手。)

○ 樽谷会長

19名全員の承認を確認いたしました。広島市教科用図書採択審議会規則第6条に基づき、過半数を超えておりますので、本市としては、光村図書出版を「よりふさわしい」教科書として、東京書籍を「ふさわしい」教科書としたいと思えます。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

なお、答申の作成については、会長、副会長に一任していただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

ありがとうございました。それでは、書写の調査員から書写の教科書の調査・研究について、報告をお願いします。

(調査員代表者 調査報告)

○ 樽谷会長

今の報告について質問がありましたらお願いします。

○ 湯澤委員

お聞きしたいのですが、文部科学省の通達で、とめとか、はねとか、はらいとか、細かいところにはあまりこだわらずに、とりあえず文字として認識できればよい、というようなことがあったかと思うのですが、そういうことは、書写の教科書に何か反映されたところはあるのですか。

○ 岡田調査員代表

形を捉えればよい、ということは確かに言われております。しかし、教科書の中にそのようなことが表れているところはございませんでした。

- 湯澤委員  
やはり、とめとか、はらいとか、そのようなことは、きちんと書くということが目標となっているのですか。
- 岡田調査員代表  
書写の時間には、そのような指導をする、ということだと思います。そのように、形が捉えられていればよい、というような指導のページはございませんでした。
- 湯澤委員  
どの教科書もそうでしたか。
- 岡田調査員代表  
はい。
- 樽谷会長  
それでは、この報告書にまとめられている内容について、これでよろしいでしょうか。  
〔異議なし〕
- 樽谷会長  
書写の調査員の代表の方、ありがとうございました。どうぞ御退席ください。  
  
(調査員代表者退出)
- 樽谷会長  
それでは、審議に入りたいと思います。御意見よろしくお願いします。
- 寺田委員  
視点②の書く姿勢・筆記具の持ち方というところで、東京書籍の写真で、左手と右手で書く場合の鉛筆の持ち方があって、とても見やすく分かりやすく、本市の課題にある筆記具の持ち方や姿勢というところで、正しく持つきっかけとして、子どもは真似しやすいのではないかなと思いました。また、合言葉については、今ずっと「ぺた、ぴん、とん。」、私は「ぐう、ぺた、ぴん、とん。」という感じで指導するのですが、分かりやすいです。それがまた教科書が変わって、合言葉が変わるとなると、系統的に考えても、6年生と1年生が違うというのは少し指導しにくい部分もあるかなと思うので、すごく使いやすいので、東京書籍がいいなと思います。
- 拝崎委員  
私も同じように、東京書籍の書きやすい持ち方のところ、視点②ですが、写真があることと同時に、1年生の子どもの手と同じくらい大きさなので、同じように真似できるような状態で載っているのも、とても分かりやすいと思いました。また、視点①の学習内容の定着のための工夫のところ、硬筆が一旦、毛筆の前に入るところが、とても魅力的だなと思いました。教育出版と東京書籍がそのようにされているのですが、硬筆を1回入れることで、日頃自分が書いている文字、折れの部分がどんなふうなのか、という問題意識を持つ



た状態で毛筆につなげることができて、更にその後、硬筆でもう1回書いてみる、という流れが、学習としてはとてもいいなと思いました。

○ 樽谷会長

視点①については、東京書籍と教育出版の2者が、硬筆が一旦入っていてよい、ということですね。

○ 拝崎委員

はい。

○ 樽谷会長

その他、いかがですか。

○ 松島副会長

視点⑩の他教科や日常生活に生かす言語活動の工夫の、東京書籍の三つ目の丸なのですが、他教科及び総合的な学習の時間と関連する箇所にリンクマークと教科等名がありますが、家庭科とか、国語とか、総合的な学習の時間とか、どこにリンクしているのか、何の教科と関連するのかなということが、教科の学習をしたときに、書写の学習も生かしてみよう、とつながっていくというところが、分かりやすくいいなと思いました。

○ 樽谷会長

その他いかがでしょうか。

○ 上田委員

私も東京書籍がいいかなと思いました。視点⑩にある「書写のかぎ」ですかね、これがとても分かりやすく、学ぶことがはっきりしているということと、巻末に一覧になっているので、困ったときにはここを見れば、「こういうことを学べばいいのか。」ということがぱっと見て分かるというのは、いつでも見られて、いつでも振り返ることができるということはいいなと思いました。

○ 久保委員

視点⑩の他教科や日常生活に生かすというところで、5年生の教科書を見ると、24ページ、委員会活動リーフレットというのがあるのですが、一番上のタイトルが「生活にひろげよう」と示されていて、意図がはっきりしているのかなと、東京書籍はそれが生かせるように構成してあるのかなというふうに考えています。さらに、先程もあつたとおり、「書写のかぎ」はすごく使えて、もともと毛筆をするのは硬筆のところに入っていくためのもので、毛筆で書けば、更にくせというか、折れの部分はどう書くのかは、鉛筆ではごまかせてたけど、それは毛筆では見えるというところで行われていると思います。子どもたちはどうしても毛筆は毛筆、硬筆は硬筆、のような感じになってしまうのですが、「書写のかぎ」があれば、例えばリーフレットを作るときに、国語科の内容は国語の教科書、書き方は書写、というふうに二つ並べて使うことができる、有効な活用ができると思いました。

○ 田村委員

「書写のかぎ」のところで、4年生の書写を行っている時に、今までだったらお手本を渡して、「さあ、書くよ。」だったのですが、今使っている東京書籍は、最初に比べさせて、自分たちが気付いて、「今日の勉強は、間を空けないといけないんだ。今日勉強するのは、そこなんだ。」と視点がきゅつと定まります。例えば、「羊」の字をきれいに書けばいいのではなく、「ここをこうすればいいんだ。」ということが、別の字と一緒に考えながら、自分たちが気付いて学習のめあてに向かえるというところがとてもいいな、使いやすいなと思っています。

また、同じ文字を扱っている教育出版と東京書籍を見た時に、教育出版は、「たしかめよう」とあり、最後に自分で確かめるのですが、東京書籍の場合はそういったことは書いておらず、「自分たちでちょっと確かめてごらん。何が違うかな。」ということに自分で気付きながら毛筆に入っていける。先程、先生も仰っていましたが、それが硬筆でも、「何も感じていなかったけど、右と左だったら、こんなに長さが違ったんだ。」と子どもたちが気付けるよさがあると日々感じているので、東京書籍はいいなと思っています。

○ 樽谷会長

これまで出していただいた意見でいきますと、視点①については、毛筆の前に硬筆が入っているというところで東京書籍と教育出版がよいのではないかと、それから、視点②については、写真で子どもの手の大きさが示されており、非常に分かりやすいということでした。それから、合言葉で「ぺた、ぴん、とん。」が、現在使われているものと同じという意味でもよいのではないかとということで、東京書籍という御意見が出ています。それから、視点⑩についても、三つの丸それぞれでたくさんの意見をいただいて、東京書籍がよいのではないかと意見が出ています。

「よりふさわしい」ものについては東京書籍、という御意見になっていると思うのですが、「ふさわしい」ものとしては、視点②は教育出版という御意見が出ているところですので、それ以外で、教育出版と光村図書出版のどちらがよいのか、という御意見をいただけたらと思うのですが。

○ 久保委員

光村図書出版は、それぞれの文字の最後に、「たいせつ」というまとめが、一般化された言葉で書いてあります。例えば「成長」という漢字を書くときも、「画の始筆同士がくっつくときは、先に書いた画の方が突き出るよ。」という、他の字でも応用が利くような形で一般化されているものが書かれています。教育出版は、そういった記述はなく、別のことも書いてあります。そういったポイントが書いてあるということで言えば、東京書籍の「書写のかぎ」と「たいせつ」が重なる部分だと思うので、いいのかなと個人的には思っています。

○ 樽谷会長

視点で言うと、何番になりますか。

○ 久保委員

視点で言うと、①です。

○ 樽谷会長

視点①ですね。その他いかがですか。教育出版と光村図書出版で一つずつ意見を出していただいておりますが。

○ 松島副会長

本市の課題と照らし合わせてではないのですが、視点⑤の単元のめあてと振り返りの示し方で、光村図書出版はめあてが少し明確になっていないのかなと感じました。教育出版は、めあてがはっきり分かるというところが一つと、それから、お手本で赤で書いてあるというところでは、光村図書出版はポイントのところは赤で書いてあるのですが、教育出版は、例えば、「ビル」という文字であれば、「ビル」という文字そのものが赤で書かれているので、全体像がポイントとして見える、というところでは、分かりやすいなと思いました。また、教育出版は振り返りが付いているので、最後に学習が終わった後に自己評価することができるという点が他と違うのかな、と思いました。

○ 樽谷会長

⑤の視点で、教育出版がよいのではないかと、という御意見でした。その他いかがでしょうか。

○ 寺田委員

先程、お話しさせていただいた視点②では、東京書籍が、左手と右手での鉛筆の持ち方が写真で示されていて分かりやすいと思ったので、教育出版と光村図書出版を比べて、どちらが分かりやすいかを見た時に、教育出版の方がより分かりやすいのかなと感じました。光村図書出版は、左手で書く場合の用具の置き方を写真で載せているのですが、鉛筆の持ち方はどうかと思ったので、本市の実態に応じるのであれば、そこは大事な視点ではないかと思いました。また、視点①で、学習過程に沿って硬筆、毛筆、硬筆という順で学習を進めるというところは、東京書籍と同じような進め方で、とてもいいなと思ったので、教育出版の方がよいのかなと感じました。

○ 樽谷会長

いただいた意見でいきますと、視点①、②、⑤の三つで、教育出版がよいのではないかと、視点④では、光村図書出版の方がよいのではないかと、という御意見でした。その他何か、ございますか。

(「意見なし」)

○ 樽谷会長

それでは、これまでの御意見を総合しますと、東京書籍を「よりふさわしい」、教育出版を「ふさわしい」、ということになるのではないかと思います。いかがでしょうか。お諮りしてもよろしいですか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

では、お諮りします。書写の教科書として、東京書籍を「よりふさわしい」教科書として、教育出版を「ふさわしい」教科書としてよい方、挙手をお願いいたします。

(人数確認。19名全員の委員が挙手。)

○ 樽谷会長

19名全員の挙手を確認しました。広島市教科用図書採択審議会規則第6条に基づき、過半数を超えておりますので、本市としては、東京書籍を「よりふさわしい」教科書として、教育出版を「ふさわしい」教科書としたいと思います。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

それでは、社会の調査員から社会の教科書の調査・研究について、報告をお願いします。

(調査員代表者 調査報告)

○ 樽谷会長

今の報告について質問がありましたらお願いします。

(「質問なし」)

○ 樽谷会長

それでは、この報告書にまとめられている内容について、これでよろしいでしょうか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

社会の調査員の代表の方、ありがとうございました。どうぞ御退席ください。

(調査員代表者退出)

○ 樽谷会長

それでは、本市の児童や地域の実態に即した教科書として、ふさわしいものはどれか審議し、「よりふさわしい」及び「ふさわしい」教科書を決めたいと思います。先程の報告を基に、委員の皆様からの御意見をいただきたいと思います。

○ 神岡委員

まず、視点⑤について、東京書籍の教科書は、学習の進め方で「つかむ」「調べる」「まとめる」「生かす」のところの下に必ずめあてが入っているので、教える先生方にとっても学んでいる子どもたちにとっても、今、どの学習過程のところで、どんなめあてで学習しているのかをつかみやすいのではないかと思います。また、どの教科書会社も学習の進め方を出してはいますが、東京書籍の場合には6年の政治の単元という子どもたちにとってハードルの高いところで、具体例を挙げて、このように学習していくんだ、ということ、かなり丁寧に扱っているように思うので、東京書籍を薦めたいと思います。

それから、資料の15ページのところですが、広島の場合は、自然災害が多発する地域でもあって、それを4年生で学ぶことになりましたが、「いかす」の場面でマイタイムラインというものを作ることで、自分でどう行動していくかについて考える活動が広島市という地域性から考えてもふさわしいのではないかと思います。

最後に、16ページの視点⑥の単元や資料等の配列・分量について、東京書籍のみ5年生、6年生が分冊となっています。6年生であれば、政治・国際編と歴史編に分かれていて、中学校では公民や歴史として社会科の中で細分化されていくその前段階として、中学校へつなげる意味でも、子どもたちの持ち運びの負担軽減という意味でも、この分冊のよさがあるのではないかと思います。

以上三つの理由で東京書籍を推したいと思います。

○ 樽谷会長

その他いかがでしょうか。

○ 上田委員

先程お尋ねしたらよかったですのですが、教育出版だけ自分で調べて考えるというところがあります。これは、どのような扱いになるのでしょうか。自分で自学していくということなのでしょうか。

○ 黒田主任指導主事

事務局からお答えします。教育出版は、自ら課題を設定して調べていくという、個別最適な学びを意識したような学習展開を提示されているのではないかと調査しております。

○ 上田委員

そうですね。分かりました。

○ 樽谷会長

これは、視点のどこかには入っているのですか。

○ 上田委員

ないと思います。

○ 樽谷会長

調査員の方から示された視点としては、①、⑤、⑩の三つ、今御意見いただいている中では、視点⑤については東京書籍がよいといういくつかの理由を挙げていただいています。視点①や⑩については、いかがでしょうか。

○ 久保委員

視点⑩に関してですが、東京書籍6年歴史編140ページのワークシートは具体的に示してあって、非常に書きやすいと思いました。他者は、リーフレットやこういうふうに話し合おうというように少し抽象的だったので、東京書籍のように具体的に例示してある方が本市の実態を考えても使いやすいかなと思います。

○ 湯澤委員

視点⑥のところでは広島県に関する教材として、それぞれの教科書で取り扱っているものが載っていて、国際平和文化都市広島として、例えば原爆のことや平和教育など、広島独自の活動をすると思うのですが、その活動を社会科の中で行うなら、どの教科書がそれらの活動

をしやすいのかなというのを教えていただければと思います。

○ 樽谷会長

現場の先生方、そのあたりはいかがでしょうか。

資料で見る限りは、3者とも平和に関することや、災害に関すること、地域の伝統文化に関することなど、そういったところは網羅されているように思います。防災関係や平和関連ということになると、5・6年生が中心となると思うのですが、教育出版は3年生にも入っているようです。実際に授業の中で活用するとして先生方いかがでしょうか。

○ 神岡委員

東京書籍6年生政治・国際編の22ページ、23ページには、平和について他者より詳しいページがあるのかなと思いますが、わりと広島の子どもたちはこれを知っているというか、全国の人がこれを見るんだなあという感じで、広島の子どもたちは見ると思います。ピースサミットなどでは子どもたちは作文を書いていますし、そこに書かれている平和の発信ということも広島の学校ではよくやっていることだと思います。隣にある年表なども4年の社会科で学習していることが載っているのでよく知っており、広島の子どもたちにとっては振り返りになるページであったり、平和について広島は特別なんだということを意識したりすることができるページなのかなと思います。

○ 青木委員

実際の教室の中で、社会科でインターネットを使って調べる場合が多いと思うのですが、インターネットで調べるとということとリンクがうまく考えられているとか、使いやすい工夫をしてある教科書はあるのでしょうか。実際にお気付きのことはありませんでしょうか。

○ 久保委員

インターネットで調べることにしては、どの教科書も差がないと感じます。例えば、現在採択されている東京書籍では、CD-ROMを使ってテレビ画面で解説付きの動画などが見られるようになっています。

○ 青木委員

あらかじめ知るべきことが動画で用意されているということですね。

○ 樽谷会長

これまでの御意見では、東京書籍が視点の⑤、⑥、⑩でよいのではないかという御意見をたくさんいただいておりますが、あとの2者について御意見ございませんか。

○ 上田委員

視点③についてですが、見方・考え方のところで、東京書籍はキャラクターを使って分かりやすく示されていて使いやすいと思います。教育出版についても、見方・考え方が大きく示されていて、子どもたちにとって分かりやすくよいのではないかと思います。

○ 面家委員

視点⑤の学習の進め方の一つとしてタブレット端末を使って調べるということと関連す

るのかと思うのですが、教育出版には「タブレット型コンピューターを生かそう」というページがあって、インターネットの中には不確かな情報があることや「あやしいと感ずることがあったら、すぐに先生や家の人に相談しよう。」と書いてあるなど、タブレット端末の使い方て気を付けなるといけなるところがしっかりと示されていよと申います。

○ 樽谷会長

これは、視点て申いますとどれになりますでしょうか。

○ 面家委員

学習の進め方に入るよな感ずが申ますので、視点⑤です。

○ 寺田委員

私も視点⑤についてですが、本市の実態として「自ら課題を見付けること」に課題があることを考えると、教育出版は「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」の言葉とともに、「この時間の間」と「次につなげよう」という問いかけを示してて、学習の進め方について大筋のことが書いてあるので、自分たちて調べていける、自分たちて考えながらできるのかなと思いました。また、見方・考え方とともに他の教科などとの関わりも示されてて、そのつながりがあることで、子どもたちが社会科の学習の意義について感ずられるので、よと思いました。

○ 樽谷会長

それでは、皆さんの御意見をまとめますと、視点の③、⑤、⑥、⑩て東京書籍、それから視点の③、⑤て教育出版というよななっています。これまでの御意見を踏まえると、東京書籍の教科書が「よりふさわしい」、教育出版の教科書が「ふさわしい」となるよかと思申いますが、その他に何か御意見はありますでしょうか。

(「意見なし」)

○ 樽谷会長

では、お諮り申します。社会科の教科書として、東京書籍を「よりふさわしい」教科書として、教育出版を「ふさわしい」教科書としてよ方、挙手をお願いします。

(人数確認。19名全員の委員が挙手。)

○ 樽谷会長

それでは、全員の挙手をいただきました。広島市教科用図書採択審議会規則第6条に基づき、過半数を超えておりますので、本市としては、東京書籍を「よりふさわしい」教科書として、教育出版を「ふさわしい」教科書としたいと思申います。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

それでは、地図の調査員から地図の教科書の調査・研究について、報告をお願いします。

(調査員代表者 調査報告)

- 樽谷会長  
今の報告について質問がありましたらお願いします。  
(「質問なし」)
- 樽谷会長  
よろしいでしょうか。それでは、この報告書にまとめられている内容について、これでもよろしいでしょうか。  
(「異議なし」)
- 樽谷会長  
地図の調査員の代表の方、ありがとうございました。どうぞ御退席ください。  
  
(調査員代表者退出)
- 樽谷会長  
それでは、本市の児童や地域の実態に即した教科書として、ふさわしいものはどれか審議し、「よりふさわしい」及び「ふさわしい」教科書を決めたいと思います。先程の報告を基に、委員の皆様からの御意見をいただきたいと思います。
- 加藤委員  
最初に説明していただいた視点①の地図の見方のところが、1年生の時から生活科などで床地図に写真を貼ったり、その上を歩いたりしながら、少しずつ地図の見方を学習していき、3年生から地図帳を使っていくときに、帝国書院の地図帳はとても丁寧に何ページも使って写真を並べて説明してあるのが基本的な地図の見方の習得につながりやすくよいと思いました。
- 拝崎委員  
私も帝国書院の方が3年生の児童が初めてもらう地図帳としては分かりやすいなと思いました。東京書籍も工夫はされているのですが、1ページの中にたくさんの情報が入っていて、3年生の児童には難しいように感じました。それに比べると帝国書院の方が丁寧に分かりやすく示されていると思いました。また、視点②の表現活動の部分についてですが、帝国書院の方が、資料を比べて違いを見付けるところまでではなく、理由を説明するというところまで求められているので、表現活動の充実につながっていると思います。
- 渡部委員  
私も視点①について、帝国書院の方が冒頭に6ページを使って丁寧に地図の見方を説明されているところがよいと思いました。そして、その次に「広く見わたす地図」というのがあり、興味を引きやすく、さらにその次に詳しい地図という構成もよいと思いました。
- 久保委員  
視点③について、東京書籍は、中国地方、四国地方の100万分の1の地図しかないのですが、帝国書院には、中国地方、四国地方に加えて、50万分の1の瀬戸内海周辺の大きめの地図が示されていて、特に県の勉強が始まる4年生にとっては活用しやすいと考えていま



す。活用をきっかけに、他県にも興味をもつことにつながると思います。

○ 辻委員

視点⑤のページ数の比較について、中国地方、四国地方に関するページは、東京書籍が4ページで、帝国書院は6ページということで、私たちに身近な中四国地方が充実しているのは、帝国書院の方だと思います。また、視点⑧について、防災マップの作成まで表現活動があるということは、本市の実態から防災意識を高めるという意味でも大切なことだと思うので、帝国書院の地図帳が本市にとってふさわしいのではないかと思います。

○ 樽谷会長

これまでいただいた御意見では、視点の①、③、⑧について、いくつかの理由をあげていただいて帝国書院がよいのではないかと、更に視点の⑤についても瀬戸内の地図が多いことなどから帝国書院がよいのではないかと意見が出ております。これまでの御意見をまとめますと、帝国書院の地図帳が「よりふさわしい」となろうかと思いますが、その他に何か御意見はございますか。

(「意見なし」)

○ 樽谷会長

では、お諮りします。地図の教科書として、帝国書院を「よりふさわしい」教科書として、東京書籍を「ふさわしい」教科書としてよい方、挙手をお願いします。

(人数確認。19名全員の委員が挙手。)

○ 樽谷会長

それでは、全員の挙手をいただきました。広島市教科用図書採択審議会規則第6条に基づき、過半数を超えておりますので、本市としては、帝国書院を「よりふさわしい」教科書として、東京書籍を「ふさわしい」教科書としたいと思います。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

それでは、ここで、休憩を取ります。

(休憩)

○ 樽谷会長

時間には少し早いですが、皆様そろわれましたので、審議を再開してよろしいでしょうか。

○ 樽谷会長

それでは、家庭科の調査員から家庭科の教科書の調査・研究について、報告をお願いします。

(調査員代表者 調査報告)

- 樽谷会長  
今の報告について質問がありましたらお願いします。  
(「質問なし」)
- 樽谷会長  
それでは、この報告書にまとめられている内容について、これでよろしいでしょうか。  
(「異議なし」)
- 樽谷会長  
それでは、調査員の代表の方、ありがとうございました。  
  
(調査員代表者退出)
- 樽谷会長  
それでは、先程の報告を基に、委員の皆様から御意見をいただきたいと思えます。よろしくお願いします。
- 辻委員  
④の視点について、お話を聞いたことから思ったことですが、一つ目の丸のみそ汁についての吹き出しのポイントの示し方において、東京書籍については、全体的に味をよくするためのポイントが示されており、開隆堂出版については、大根に火が通る目安に着目することや、食材を入れるタイミングに着目することで、より効率的に作ることや、他の料理にも生かせるようなポイントが示されているのかなと感じました。それから、四つ目の丸の家庭や地域の一員ということについて考える学習についてですが、東京書籍については、三つの学習の流れの段階が、最終的には「持続可能な社会をつくるために生かしていこう」と、視野がかなり広いところにいるのですが、開隆堂出版は、自分も、まず地域の中での一員であるというところから、地域でのよりよい関わり方、そして、最後に地域での取組を工夫して続けるというところで、あくまで自分の身近なことにつなげて考えている流れになっていると思うので、こちらの方が自分事として考えるには、よい流れになっているのではないかと感じました。
- 樽谷会長  
ありがとうございました。その他、いかがですか。
- 堤委員  
私も、開隆堂出版がよいかと思っています。家庭科は、家庭生活に返すとか地域に返すということが、とても重要になってきます。そういう意味で、開隆堂出版は、単元末に、必ず「生活に生かす」というコーナーがあつて、そこに返っていくというのはどの単元も意識しているなと思います。今も使いやすいし、いいなと思っています。それから、所々に、「レッツトライ！生活の課題と実践」というような、お弁当を作ってみようとかいろいろなことが書いてあるのですが、夏休みの宿題などにもよく使うのですが、こうした生活に生かすという視点で、開隆堂出版はいろいろな工夫があるので、いいなと思っています。二つ目は、観点③の単元の配列になるのですが、5年と6年で、住まい方とか衣服の手入れを分け

ている開隆堂出版と、まとめている東京書籍があるのですが、6年にまとめると、なかなか時数的にも厳しいかなと思っていて、今、5年と6年で分けて学習しており、一学年一つということで指導もしやすいので、分けた方がよいのではないかと考えています。三つ目は、レイアウトのことなのですが、例えば、ミシンや調理のところで、実際に自分たちが活動するところの色が帯になっています。これが子どもたちにもとても見やすいので、実習が行いやすい教科書になっているなと思っています。開隆堂出版がいいかなと思っています。以上です。

○ 樽谷会長

ありがとうございました。その他、いかがですか。

○ 渡部委員

④の視点の家庭・地域での実践につながる工夫というところなのですが、先程の説明でいうと、上から三つ目の丸の消費者教育のことを言われたのですが、消費者教育は、これからの子どもたちにとってもすごく大事なことだなと思っています。家庭科を教えるときは、どうやって教えようかなと思っているのですが、この度、教科書がよりよく変わっていて、いろいろなトラブルを紹介していたり、消費者センターの紹介や注意喚起、インタビューなど、たくさんあるので、いつも授業する時に、「こんなこともあるよ、こんなこともあるよ。」と、いろんなトラブルを紹介したり、「こんな時どうしようか。」って言っていたのですが、教科書に載っているの、それが充実できるようになっていいなと思ったので、開隆堂出版の教科書の方がいいなと思いました。

○ 樽谷会長

ありがとうございます。その他、いかがですか。調査員の方から示された視点が④、⑤、⑦だったと思うのですが、視点の④と⑦、この二つの視点で開隆堂出版の方が、更に⑥と⑧の視点でも開隆堂出版の方がふさわしいのではないかということだったと思います。その他、よろしいですか。お諮りしてよろしいですか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

それでは、お諮りします。家庭科の教科書として、開隆堂出版を「よりふさわしい」教科書として、東京書籍を「ふさわしい」教科書としてよい方、挙手をお願いします。

(人数確認。19名全員の委員が挙手。)

○ 樽谷会長

19名全員の挙手がありましたので、広島市教科用図書採択審議会規則第6条に基づき、過半数を超えておりますので、本市としては、開隆堂出版を「よりふさわしい」教科書として、東京書籍を「ふさわしい」教科書としたいと思います。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

それでは、道徳の調査員から道徳の教科書の調査・研究について、報告をお願いします。

(調査員代表者 調査報告)

- 樽谷会長  
今の報告について質問がありましたらお願いします。  
(「質問なし」)
- 樽谷会長  
それでは、この報告書にまとめられている内容について、これでよろしいでしょうか。  
(「異議なし」)
- 樽谷会長  
道徳の調査員の代表の方、ありがとうございました。どうぞ御退席ください。

(調査員代表者退出)

- 樽谷会長  
それでは、本市の児童や地域の実態に即した教科書として、ふさわしいものはどれか審議し、「よりふさわしい」及び「ふさわしい」教科書を決めたいと思います。先程の報告を基に、委員の皆様からの御意見をいただきたいと思います。
- 辻委員  
まず、視点③の問題意識をもたせるための工夫についてです。報告書には、「手品師」を例にして、二つ目の丸で、どのように導入をしているか示されていて、東京書籍、教育出版、日本文教出版、光文書院については、まとめると、「『誠実』とはどういうものですか。」と聞いていますが、光村図書出版だけが、「だれかと約束したのに、守れなかったことってある？」と、教材の場面と関連させて聞いています。6年生の児童の実態によっては、「誠実」ということについて、児童がよく理解していない可能性があります。光村図書出版は、こういった児童の実態を意識して導入を作られていると感じました。導入の場面において、自分の生活を振り返って、同じような場面がないか、その時にどう思ったかということを導入で自分事として考えさせていくためには、光村図書出版がよりよいのではないかと思います。  
それから、視点⑤の体験的な学習を取り入れた工夫については、役割演技の数について二つ目の丸にまとめられていました。教育出版は25教材、光村図書出版は20教材でした。役割演技は、道徳科の授業としては大切にしたいことであり、自分事として考えるために意味のある活動です。数だけで見ると、教育出版が多いですが、視点⑤の考えることや議論が活発に行われるための工夫の中で、光村図書出版は、役割演技の手順が具体的に示されています。役割演技で一番大事なものは、周りの人が役割演技をしている人を見て、どのように感じたか考え、クラス全員を巻き込んでいくことだと思います。光村図書出版は、そこが示されており、大切にされていると感じました。数だけで見れば、教育出版ですが、質という点で見ると、光村図書出版がよいと思いました。  
その他、⑨の視点において、光村図書出版は、「みんなで気持ちよく話し合うコツ」ということで、うなずきの例が示されており、支持的な風土で議論を進めていくことができるように工夫しています。それから、対話の練習をする場面や思考ツールを活用する例が示され

ており、充実していると感じました。

教育出版では、思考ツールとして、子ども一人一人が「心情メーター」を作ることができるようになっていきます。「心情メーター」は、いい気持ちか悪い気持ちか判断する場面において、自分はいい気持ちか何%なのか割合で示しながら考えていきます。こういったものを子ども個人に用意されているということは、考えを深める上で有効であると思います。

○ 上田委員

先程御意見があったように、光村図書出版はどの項目についてもまんべんなく工夫されていると感じました。視点⑨の考えたり話し合ったりすることについて説明しているページがあるという点においては、光村図書出版の次は、東京書籍か光文書院がよいと考えています。特に、思考ツールがあることや、「いじめについて考えよう」というページがあるという点で、2番目に東京書籍がふさわしいのではないかと思います。

○ 面家委員

光村図書出版はよりふさわしいという感じがしており、次を考えると、東京書籍と光文書院が工夫されていると思いました。光村図書出版は、視点⑨において、言葉にこだわっていて、話し合いを活発にする言葉が示されていたり、対話を練習する内容が設けられていたりしていました。それに近いところでは、東京書籍は話し合うときの伝え方の例を示している、光文書院は話し合いを活発にする言葉を示していて、東京書籍と光文書院がよいと思います。

もう一つ、②の視点になりますが、巻末にある学びの記録のところでは、光村図書出版の巻末には、夏休みの一行日記のような学びの記録がついています。全ての学びの記録が1枚につながっているため、振り返りやすいと感じました。その点で見ると、光文書院がそれに近くてよいと思います。

○ 樽谷会長

今、東京書籍、光文書院についての意見をいくつか出していただきました。視点⑦について、もう少し御意見いただけないでしょうか。

○ 久保委員

やはり、光村図書出版はバランスがとれていると思うのですが、2番目を考えると、私も、東京書籍と光文書院かと思っています。視点⑦の現代的な課題について内容項目の異なる複数の教材を組み合わせた学習を見たとき、東京書籍は各学年に一つ、光文書院は各学年に三つ設定しています。さらに、光文書院は、いじめや命といった内容を重点として、特に力を入れているのかなと思います。このことは、本市の実態としてもつながると思います。

○ 樽谷会長

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

○ 面家委員

東京書籍と光文書院を比べてみたところ、視点③の問題意識をもたせるための工夫における導入の発問例について、東京書籍は教材の後ろに、光文書院は教材の前に設定されています。道徳の授業は、入口と出口は自分について考えることが大切だと思って授業をしているので、光文書院のように、入口の段階で『誠実に生きる』とはどのような生き方のことな

のかな。」と投げかけて考えさせる導入は授業で使いやすいと思います。

○ 樽谷会長

これまでいただいた御意見で比べていきますと、多くの視点において、光村図書出版がよりよいのではないかとということでした。次に、東京書籍と光文書院、それぞれの意見が出されているのですが、視点②の毎時間に学びの記録があるというところで光文書院、視点③の導入でねらいを示すよさがあるというところで光文書院、視点⑦の現代的な課題の設定のところで、「重点主題」として扱っているところや、内容項目の異なる複数の教材を組み合わせた学習を各学年で三つ設定しているところで光文書院がよいという意見でした。それから、視点⑨の言語活動の充実では、言葉を大切に話し合いについて示しているという点で、東京書籍と光文書院の両者に工夫が見られたという御意見でした。

これまでの話し合いを総合しますと、「よりふさわしい」教科書が光村図書出版、「ふさわしい」教科書が光文書院ということになるかと思いますが、まだ意見がある方はおられますか。

(「意見なし」)

○ 樽谷会長

それではお諮りしてもよろしいですか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

それでは、お諮りします。道徳の教科書として、光村図書出版を「よりふさわしい」教科書として、光文書院を「ふさわしい」教科書としてよい方、挙手をお願いします。

(人数確認。19名全員の委員が挙手。)

○ 樽谷会長

19名全員の挙手をいただきました。広島市教科用図書採択審議会規則第6条に基づき、過半数を超えておりますので、本市としては、光村図書出版を「よりふさわしい」教科書として、光文書院を「ふさわしい」教科書としたいと思います。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

以上で、すべての審議を終わりました。おかげさまで、本市として「よりふさわしい」教科書と「ふさわしい」教科書が決まりました。それでは、教育委員会から諮問された教科書の調査・研究について、慎重に審議を行った結果をまとめて答申いたします。

○ 以後は、会長の責任において、事務局との間で答申の事務手続きを行いたいと思いますが、会長に一任していただけますか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

それでは、これで本日のすべての審議を終了します。

委員の皆様の御協力によって、広島市の教科書採択について、公正かつ適正に審議し、教

育委員会へ答申することができそうです。委員の皆様、御協力ありがとうございました。

○ 宮崎指導主事

委員の皆様ありがとうございました。最後に指導第一課長より、御挨拶申し上げます。

(挨拶)

○ 宮崎指導主事

長時間にわたり、委員の皆様大変ありがとうございました。

これで、令和5年度第3回広島市教科用図書採択審議会を閉会します。ありがとうございました。気を付けてお帰りください。